

新 一 転機

温故知新と誠意で 名古屋市をよりよい街へ

名古屋市会議長

坂野 公壽氏



昭和二十一年生まれ。平成十五年四月、名古屋市会議員当選（以来連続四期）。平成十九年五月、土木交通委員会委員長。二十五年三月、自由民主党名古屋市委議員団幹事長。二十七年五月、大都市制度・広域連携促進特別委員会委員長。三十年五月より名古屋市会議長。

【先人の思い】昭和三十年ごろ、南陽町会議員だった親父から「名古屋市と合併したらよくなる」と言われていましたが、合併した数年後にみまわれた伊勢湾台風の際、救援物資がしっかりと届いた以外は私が立候補するまで合併前とほとんど変わっていませんでした。農業政策だとか、口先だけで何も進まず名古屋全体のまちづくりから取り残されておりました。

先人たちの思いを果たすべく平成十五年名古屋市委議員選挙に立ち、当選後まちづくりを訴え下水道整備等ようやく実を結びつつあります。

【地産地消】名古屋市内の学校給食では市内で収穫した米を一粒たりとも使わず、市以外の愛知県内で収穫した米を使っていました。が、現在市内で収穫された米が使われるようになりました。地域社会として成熟していくには地産地消が必要だと考えたからです。

【議会運営】名古屋市は名古屋城の天守閣の問題を抱えています。市長はもつと関係者と話をすべきだと思っています。自分の思

いばかりを優先させている気がします。全ての人を納得させる案というのではないでしょうが、様々な立場の人たちからも「この案なら」と理解を得るまで対話するのが民主主義であり、すべての市政の原点だと思っています。

【華道】十九歳から議員になる前は、生花店を営むかたわら華道の先生をしていました。それもあってか、家では花を活けるのが私の仕事となっています。この話をすると「嘘だろう」とよく驚かれますが、活けた作品を見せるともつと驚かれます。

【真心】「温故知新」と「誠意」です。伊勢湾台風のこととは今もしっかりと覚えています。当時のことを知らない人が多くなり、昔のことを忘れずにちゃんと伝えていく必要があります。災害などは特にそう感じます。良くも悪くも嘘をつかずにやってきました。「いかに」とはいかん」と今日まで言ってきたので、それが災いしたことも多くありますが、応援してくださる方たちのためにも真心をもって対応していかなければなりません。